

令和6年度施政方針  
(大局観)

(令和6年第1回川島町議会定例会)

令和6年2月28日

川島町

それでは、議長からお許しをいただきましたので、本定例会においてご審議いただきます諸案件に先立ちまして、令和6年度の町政経営に関する基本的な考え方を申し述べます。

(はじめに)

新年早々の元日の夕方に発生いたしました「令和6年能登半島地震」は、新しい年の幕開けを祝う人たちを一瞬にして突き落とす、大変大きな災害となってしまいました。

今もなお、1万人以上の人たちが避難生活を余儀なくされ、道路や水道といった、インフラやライフラインも壊滅的な被害を受け、復旧作業も遅々として進まない状況であります。死者は、平成28年の熊本地震以来となる200人を超えるところとなり、今回の地震被害の大きさを実感しております。半島特有の地形とはいえ、対岸の火事ではすまされない、まさに我が身の事、自分事として、心していかなければならないと考えます。

改めて、不幸にしてお亡くなりになられた皆様のご冥福と、被災された皆様に、衷心からお見舞いを申し上げます。「復興」とは、「様」も「殿」もない表札が家々にかかる日のこと」と、新聞のコラムにも書かれておりましたが、一日も早い復興、そして、心の底から笑える日が戻ってくることを願ってやみません。

本町は、土砂崩れや津波の心配はありませんが、液状化や噴砂などが想定されます。また、豪雨による洪水被害など、町特有の災害対策も必要であります。いざ、有事となったときは、私自身が先頭に立ち、町民の皆様の不安を少しでも取り除くメッセージを発信し続けなくてはいけないという思いを固めております。

災害は、いつ、どのような形で発生するかわかりません。「その時」に備え、対策を考えておく必要があります。「被災時の状況をイメージすることは大切な災害対策」とも、新聞記事に出ており

ました。想像力を働かせ、常日頃から、その時に備えておくことがとても大事なことではないでしょうか。

「まもる」

能登半島地震を受け、町ではさっそく、県町村会を通じて義援金を送るとともに、避難所支援のため職員二人を派遣しました。

「百聞は一見にしかず」。派遣した職員は、多くの情報を肌を感じ、思うことが多々あったかと思います。

町では、何といても、豪雨等による水害が一番懸念される場所であり、大規模な浸水時に避難できなかつた方への一時的な避難場所として、高台避難場所を整備することにしております。令和6年度は、出丸地区内に整備する高台避難場所の周辺整備として、水路整備等を行います。

また、広域避難場所の追加や法改正等による内容、また、今回の地震による修正点なども検討を行い、ハザードマップをリニューアルいたします。

今回の能登半島地震では、ライフラインである水道管の脆弱さが露呈しました。令和6年度も、重要給水拠点までの配水管耐震化事業を進めてまいります。

町内を流れる一級河川の安藤川、横塚川の改修は、豪雨時の内水対策として緊急性の高い、重要な課題となっております。横塚川につきましては、樋管の改築と築堤の整備が推進されており、安藤川上流部の改修につきましても、鋭意、県に要望しているところであり、ご理解をいただきながら、町民の皆様へ安心をお届けしてまいりたいと考えております。

令和5年度から専任組織を設けて事務を進めております空き家対策事業につきましては、空き家の利活用等を促進するため、補助制度の創設や空き家の改築、改装、解体費用に係る融資への利

子補給等を始めてまいります。

昨年、桶川市と広域化協議会を立ち上げ、2か年事業で各種計画の策定を進めております、ごみ処理の広域化につきましては、令和6年度にこれらの計画の策定と、一部事務組合の設立に向けた準備を行ってまいります。

主要地方道日高川島線の拡幅整備事業は、令和6年度に都市計画の変更手続きを行うとのことで、引き続き、県と相互に協力しながら、安全性の確保と利便性の向上を図ってまいります。県道川越栗橋線につきましても、歩行者や自転車の安全通行のため、歩道整備を継続して県へ要望してまいります。

また、健康づくりや高齢者支援推進室を中心とした高齢者への支援として、令和6年度から新たに「コバトンALKOO（あるこう）マイレージ事業」、「高齢者訪問（おせっかい訪問）事業」、「終活支援事業」、「介護人材確保支援事業」を、さらには、がん患者の苦痛を軽減する「がん患者アピアランスケア支援事業」を始めます。いずれも町民の皆様に寄り添いながら、支援をしてまいります。

### 「つなぐ」

新たな集いの場を創出する「地域活動センター(仮称)」の開設ですが、令和5年度にセンターの方向性等を出させていただきました。令和6年度は、センターの設置や運営について検討してまいります。このほか、「かわじま未来塾」への活動支援、コミュニティ推進事業など、人と人をつなぐ事業につきましても引き続き、進めてまいります。

議会運営では、効率的な運営とペーパーレス化を推進するため、タブレット端末を導入してまいります。

「つくる」

町民の皆様の利便性の向上や職員の事務効率化を図るため、自宅にいながらいつでもさまざまな行政サービスを受けられることを目指して、デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）を活用し、電子申請を円滑に行うことのできる「汎用的電子申請システム」を新たに導入いたします。

また、現在、県では「日本一暮らしやすい埼玉県」の実現に向け、埼玉版スーパー・シティプロジェクトを推進しておりますが、本町でも、令和5年度に「かわじまスーパー・シティプロジェクト ～ここが好き、やっぱり好き～」をエントリーいたしました。今後、圏央道川島インターチェンジを中心とした拠点整備（コンパクト）はもとより、交通ネットワークの形成や農業の活性化（スマート）、再生可能エネルギーの普及促進、営農型太陽光発電の整備（レジリエント）等、各種取組を県と連携して推進してまいります。

農業分野では、ロボット技術やICT等の先端技術を活用した機器導入、農産物の販路拡大等を目指す、「輝け！農業イノベーション応援事業」により、引き続き、新規就農者・認定農業者の支援をしてまいります。また、令和6年度は、鳥獣被害防止対策の一環として、アライグマ捕獲器を購入する方への補助制度を創設いたします。

なお、圏央道川島インターチェンジ南側地区の開発につきましては、引き続き、県や関係機関との調整を図りながら、本町の輝く未来に向けたまちづくりを進めてまいります。令和6年度は、先行している29ヘクタール部分の都市計画法手続きを行ってまいります。また、周辺地域に立地予定の宿泊施設につきましては、地権者の同意が得られましたので、今後、地元説明会等に向けた準備を進めてまいります。

「そだてる」

川島町で育ち、夢であったプロゴルファーになった岩井明愛、岩井千怜選手は昨年、目覚ましい活躍を見せ、押しも押されもせぬ女子プロゴルフ界のトップ選手となりました。本町では、その功績を称え、本年1月に川島町民栄誉章を授与させていただきました。明愛プロ、千怜プロには、本年も昨年以上の活躍を期待するところであります。

本町では、令和6年度も町の宝物である子どもたちに、夢を育み、豊かな感性と社会を生き抜く力を養う教育・保育の充実に力を入れてまいります。

まず、教育の分野では、施設一体型小中一貫校の令和7年度開校に向け、小学校低学年棟の建築をはじめ、川島中学校の校舎改修等を行います。

また、平常時は子どもたちの授業として、非常時は避難所の役割を果たす、体育館のエアコン設置、照明のLED化を図る改修工事を進めてまいります。なお、老朽化が著しい西中学校体育館の照明は、先行して工事を行います。

さらには、不登校の児童生徒への学びの場を確保するため、デジタル田園都市国家構想交付金(デジタル実装タイプ)を活用し、オンラインを活用した相談や人事交流等ができるよう教育メタバースを構築してまいります。

次に、子育て支援では、令和5年度から設置した子ども未来推進室をさらに推進すべく、既存の事業を充実させるとともに、母子保健事業では、「訪問型産後ケア事業」や「ホームスタート事業」、「低所得妊婦への初回産科受診料助成事業」等の事業を新規に立ち上げます。いずれも、町全体で子育てを応援していく体制づくりを進めてまいります。

以上、雑ぱくではございますが、第6次川島町総合振興計画の「まもる」「つなぐ」「つくる」「そだてる」の四つの戦略目標ごとに、令和6年度の主要施策等を申し上げました。

なお、各会計の当初予算は、厳しい財政状況ではありますが、持続可能な社会の実現を目指しながら、第6次川島町総合振興計画に位置づけた各施策を計画的かつ効果的に展開するものとして、重点的に配分したものでございます。

その結果、一般会計は、88億7,700万円となり、前年比1億2,700万円、率にして14.5%の増となりました。

また、特別会計は、

国民健康保険特別会計が7.2%増の25億4,000万円、

介護保険特別会計が3.5%増の20億8,200万円、

後期高齢者医療特別会計が20.8%増の3億6,749万円、

そして、企業会計は、

水道事業会計が6.9%減の7億4,757万5千円、

下水道事業会計が10.6%減の7億2,638万9千円

となりました。

予算に基づく主要事業につきましては、令和6年度予算案の概要や「令和6年度予算書」をご参照くださいますようお願いいたします。また、傍聴の皆様や町民の皆様には、庁舎1階の情報公開コーナーや町ホームページでご覧いただくことができます。よろしくお願いいたします。

(むすびに)

むすびに、ことし1月4日の、新年仕事始め式の際、「大局観を持とう」と、職員に呼びかけました。社会環境や自然環境が加速度的に変化している“今”だからこそ、心しておかなければならない言葉だと考えております。

大局観とは、囲碁や将棋などのボードゲームで、的確な形成判断を行う能力や感覚のことを指します。魚の目、虫の目、鳥の目、そして、コウモリの目を持って、自らの現状を知り、様々な方向から課題を洗い出し、将来の在り方を判断することが、「大局観を持つ」ことであると、思うところです。

今を生きる町民の皆様の幸せのため、10年後、20年後の町に生きる皆様の幸せのために、大所・高所から物事を見つめ、日々、決戦の場であることを肝に銘じながら、令和6年度も職員とともに一丸となって、しっかりと地に足をつけ、全身全霊、身命を賭してまちづくりに邁進していく所存です。

本年は、夏季オリンピック・パリ大会の開催や、渋沢栄一氏肖像の新一万円札の発行などが予定されております。また、岩井姉妹が参戦する女子プロゴルフの国内ツアーも始まります。能登地方の一日も早い復興を心から願うとともに、令和6年が吉祥の年となることを期待してやみません。

もうすぐ、弥生3月。水ぬるむ頃となり、春の花々が咲きだしてまいります。第6次川島町総合振興計画の基本理念である「ここが好き、やっぱり好き」。この理念を多くの皆様に言っていただけ川島町にするために、町民の皆様並びに議員各位におかれましては、引き続きご支援とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。令和6年度の町政経営に対する方針といたします。

令和6年2月28日

川島町長 飯島和夫